

難易度設定に基づいた段階的 運転リハビリテーション

桔梗ヶ原病院
園原和樹， 佐藤理恵， 松塚翔司



第3回日本安全運転
・医療研究会

2019年1月27日

【はじめに】

近年、医療機関においてDSが運転適性の評価に用いられている。当院では2015年（平成27年）にDSを導入し、運転支援に活用している。

DSを訓練課題としたリハビリテーションにより運転技能の改善を認めたことを契機として、当院では2017年（平成29年）よりDSを中核とした運転リハビリプログラムを提供している。今回、当院にて施行している運転リハビリプログラムの詳細について報告する。

ドライブシミュレーター(DS)について

【意義】

現在の運転支援

I. 運転適性の評価

リハビリの意義 = 機能回復

II. リハビリテーションの訓練機器

- ① 運転技能の再獲得
- ② 運転習慣の再学習

【長所】

- I. 机上課題では評価できない運転適性を評価
- II. 教習所で施行する実車評価と似た意義がある。

【短所】

- I. シミュレーター酔い
- II. 機器操作に慣れが必要
- III. 学習効果
危険場면을覚えてしまうこと

HONDA セーフティナビ

【コース一覧（7種類59コース）】

I. 運転反応検査（4コース）

II. 運転操作課題（18コース）

III. 市街地走行

①総合学習体験（3コース）

②危険予測体験（18コース）

③環境別走行体験（6コース）

④ロングドライブ（6コース）

IV. ファンドライブ（4コース）

【運転反応検査】

- I. 警察庁「高齢者講習用運転操作検査器の基準等」に準拠した検査。
- II. 5段階の評価結果から、運転適性を判断する。

	課題			難易度	時間
	アクセル ブレーキ ハンドル				
単純反応	○			easy	2.5分
選択反応	○	○		normal	3.5分
ハンドル			○		3分
注意配分	○	○	○	hard	5分

【運転操作課題】

モニター3画面を用いた検査により、半盲や半側空間無視を検出する。

【市街地走行①】

- I. 現実世界の一般道に近いコースを走行することにより、運転適性を総合的に評価する。
- II. 教習所で施行する実車評価と似た意義がある。
 - ①安全に自動車事故を起こすことができる。
 - ②時間的な制約受けずに、時間をかけて運転適性を評価することができる。

【市街地走行②コースについて】

- I. 総合学習体験（5分）
5段階の評価結果から、運転適性を判断する。
- II. 危険予測体験（3～4.5分）
 - ①走行結果の表示あり（走行地図）
 - ②背景の選択あり（昼，夜，霧）
- III. 環境別走行体験（3 ～ 3.5分）
 - ①走行結果の表示なし
 - ②コースの選択あり（高速，雨，雪，夜間）
- IV. ロングドライブ（通常15分，短縮10分）
 - ①市街地 + 郊外路より構成
 - ②長時間走行の評価に用いる危険予測体験

難易度設定に基づいた段階的運転リハビリテーション

【現在の課題】

- ・ 多数（7種類59コース）存在する走行コースの特徴
・ 差異を理解できず、適切に使いこなせていない。

【走行コースの再分類】

I. 評価

運転反応検査， 運転操作課題， 総合学習体験

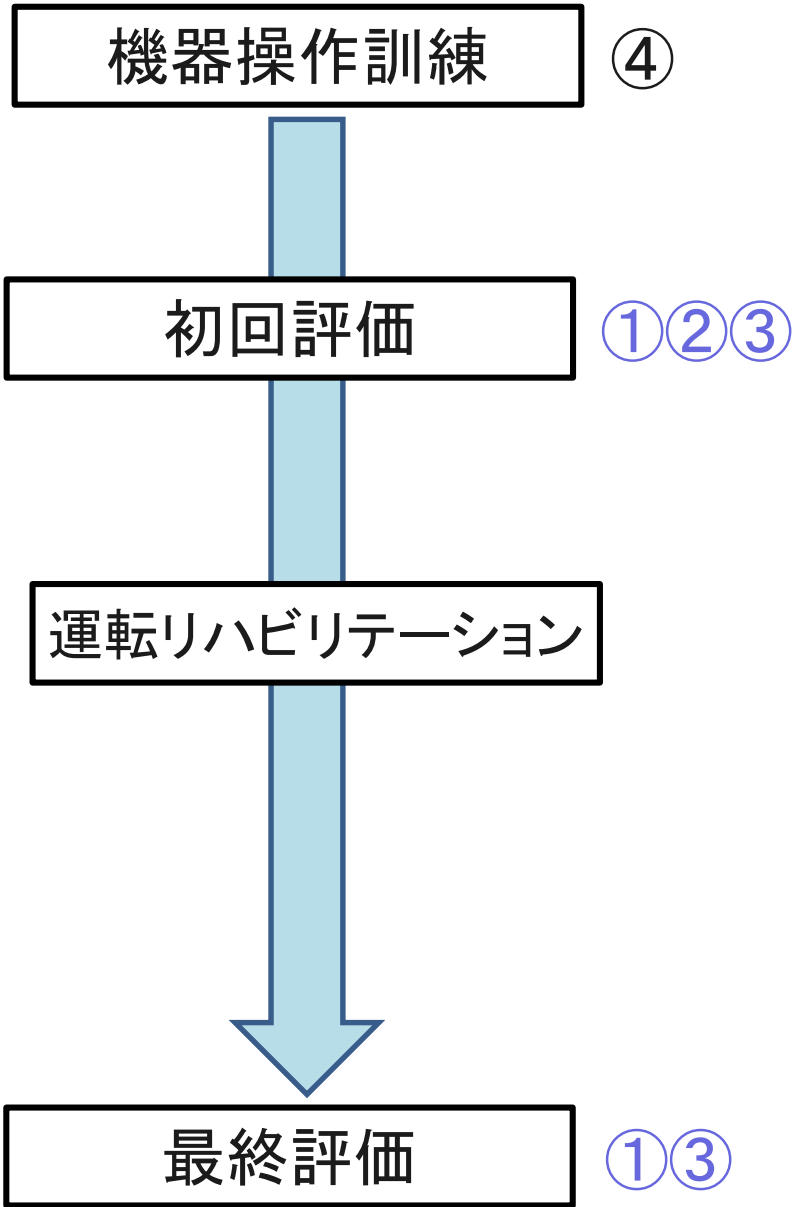
II. 自動車運転リハビリテーション

① 運転反応検査（および運転操作課題）

② 危険予測体験， 環境別走行体験

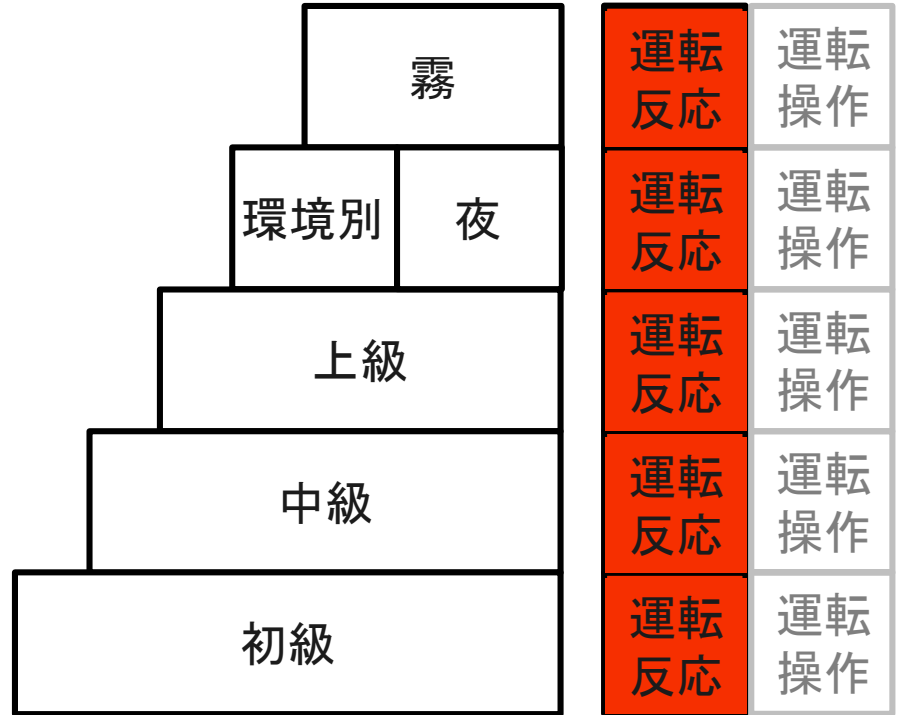
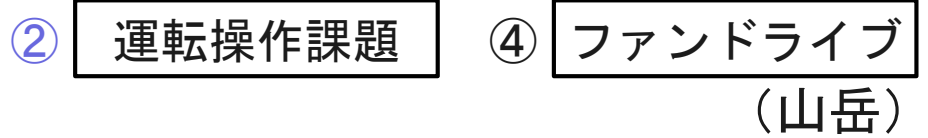
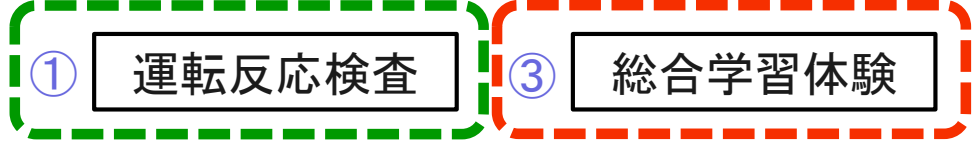
1. 初級 < 中級 < 上級 < 環境別

2. 昼 < 夜 < 霧



運転適性検査

一般道の模擬走行



結語 ～ 段階的運転リハビリテーション導入の意義

- I. 訓練担当者の中で、自動車運転リハビリテーションの方法（DSの使い方）が統一された。
- II. 患者の回復段階にあわせて、適切な難易度の走行コースによる訓練を行うようになった。

第3回日本安全運転・医療研究会COI開示
筆頭発表者名：園原 和樹

演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません。